「（仮称）こども本の森」のコンセプトや機能について

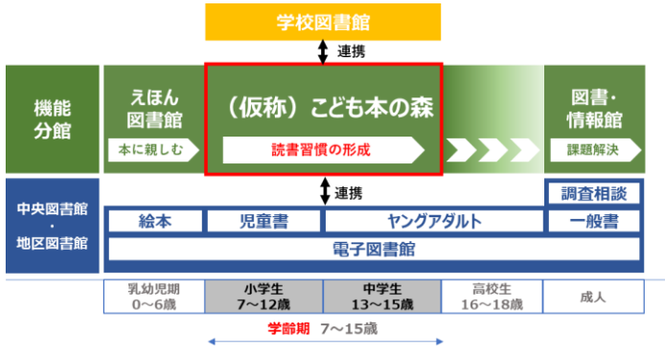
資料２

2024/05/27　教）中央図書館

札幌市は令和５年11月７日、株式会社安藤忠雄建築研究所、国立大学法人北海道大学と、「（仮称）こども本の森」に係る基本合意書を締結しました。この基本合意書では、安藤忠雄建築研究所が「（仮称）こども本の森」を設計・建築し北海道大学に寄附すること、北海道大学が建物を所有・管理すること、札幌市と北海道大学がこの施設を運営していくことなどを定めています。これを受けて札幌市は、施設のコンセプトや機能をまとめた基本方針を令和６年度中に策定します。

施設の位置付け

子どもの読書活動では、特に小学校から中学校へ進むにつれて不読率が大幅に増加するなど、学齢期における読書離れが課題となっています。そのため、小中学生を主な対象とした新たな市立図書館として設置し、学齢期からの読書習慣の形成を主たる目的とした機能分館として位置付けます。



ヒアリング調査

基本方針策定にあたり、施設利用者（小学生、中学生、高校生、一般　計19名）、施設関係者（北大関係者10名、北大の学生21名）、先行施設（こども本の森　中之島、神戸）、有識者（５団体）にヒアリングを実施し、本施設に求められることをまとめました。

「(仮称)こども本の森」に求められること

新たな興味を引き出す本と出会う

- 自分が知らない世界、新しい視点を得られるようになると良い。
- ジャンルを横断的にすることで、今まで興味をもっていなかったところを知りたい。
- 本が年齢で区切られていないのが良い。

本と出会うことによって成長する

- 受験で視野が狭まる前に、哲学など、教養について学べる、そういう教育が図書館にあると良い。
- 子どもがわくわく感を持てる本があると良い。大人向けや洋書でも、少し難しかったという印象を残し、大人になったときにまたその本に出会うことができる。

学び舎の中にあることで様々な文化や知識に触れられる

- 世界を旅するように、いろんな時代や世界観にぐっと入り込めると良い。
- 外国にルーツを持つ子どもも多い。洋書をまとめて一箇所に置かずバラバラに置けば、子ども同士の触れあいもことばの壁を超えられる。

子どもも大人も一緒に学びあう

- 子どもたちを子ども扱いしないこと、大学院生が子どもから学ぶことも多くある。
- 子どもに対して教えるのではなくアイデアを肯定し、様々なことを一緒に楽しめるなど、大人は伴走者としての役割や助言者の精神が大事。

多様な過ごし方のできる読書環境がある

- 本のあるスペースと読むスペースが分かれているのではなく、境界を曖昧にしてほしい。
- 靴を脱いでごろごろできるスペースが欲しい。
- 広いところと自分の世界に没入するスペースがあると良い。
- おしゃべりできる、複数人で過ごせる等、多様な過ごし方ができると良い。

自然豊かな環境を活かす

- 北大の中は自然が多いので、明るく自然光が入る広いところがあると良い。
- 自然があるので、屋外でのイベントや読み聞かせ、中と外との連動性があると良い。
- 自然豊かな場所で、セミやリスなどの生き物もいるので、活かせると良い。

コンセプトと３つの方針

コンセプト　**こどもに知をひらく**

「（仮称）こども本の森」は、大学の中にある子どものための図書館として、そこにある知を子どもたちにひらくこと、また、本との出会いを通して知と未知の扉をひらくことで、新たな学びと創造の世界へといざないます。

３つの方針

本との出会いから、世界への好奇心と想像・創造力を育む

- 好奇心のままに本を手に取り、特別な時間と体験が得られる空間を目指す。
- 年齢やジャンル、国を超えた本を収集し、興味や知識の広がり、自身の成長を促し、想像力や創造力を育む。

多種多様な　知や人とつながり、学びを深める

- 大学施設との連携し、多種多様な知とのつながりをつくるなど、この地にできる図書館ならではの学びを創出する。
- 大学生や大学院生などと交流することで、子どもと一緒に学びを深めていく。

魅力ある空間や　豊かな自然の中で、読書に没入する

- 五感を使って感じる、環境や場所の力で、子どもたちの感性や想像力を豊かにする。
- 施設の中と外の連動性をつくることで、子どもたちに形式ばらない読書の楽しみを実感してもらい、次なる一冊への没入をもたらす。

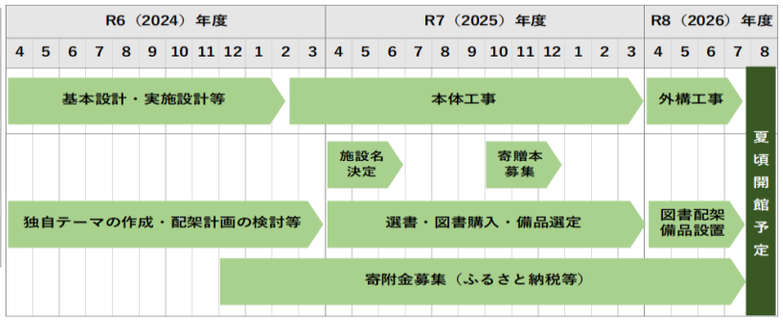
サービスを構築する３つの機能

コンセプトを実現するため、新たな本との出会いを促す誘発機能、多種多様な知や人とつながる交流機能、空間や自然などを感じながら様々なことが学べる体験機能、これら３つの機能を柱としてサービスを構築します。各機能が相互に連携し一体的に学びを深めていきます。

誘発
・子どもたちの本との出会いを促すため、絵本、図鑑、外国語の本などを並列に並べ、大人が読む本も含みながらテーマに沿った多様な本を分け隔てなく選書・配架します。
・オリジナルの分類をつくり、テーマを分かりやすく利用者に伝えます。

交流
・子どもたちと大学、学生との交流を促すため、大学との連携を積極的に行います。
・市立図書館、学校と連携し、児童・生徒に向けたサービス向上に貢献します。

体験
・周囲の自然を活かし、子どもたちが様々なことを感じ、学ぶことのできる体験機能を持たせます。
・子どもたちが多種多様な知に触れ、体験できる取り組みとして、「学びのプログラム」を検討します。

建設予定地とスケジュール

札幌市北区北８条西６丁目
（北海道大学構内南門付近）